

すく仲間づくりを進めよう

初の試み！ ワークショップも 大盛況



ワークショップを進める小松副委員長
初めての試みのワークショップでしたが、コーヒー・お茶・お菓子コーナーもあり、じゃんけん大会のウォーミングアップ

1日目の講演のあとは、夕食交流会で楽しい時を過ごし、2日目は、アメリカのレイバーノーツの「トラブル・メーカーズ・スクール」(※1)やコミュニティ・オーガナイズング・ジャパン(※2)のワークショップに参加した小松副委員長、樋口書記次長、長池執行委員の進行による「府職労版トラブル・メーカーズ・スクール 職場を変えよう」を行いました。



学びと交流のつどい
ワークショップのつどい

ワークショップ参加者の感想

みんなで話し合うことの大切さを学んだ
相手のニーズをつかみながら対話することが大切だと思った。
もって経験を積んで生かしたい。



問題点を明確にし、仲間を集め、手順をしっかり踏んで取り組まなければならぬという学びを学べた。

聞くことの難しさを実感した。体系的に進めていくことが必要だと再認識した。
初めての参加ですが、みんな不満に思っていることを口々に言うだけで何の解決にもならないと思った。



一人で抱え込むのではなく、職場のみんなで声をあげて少しでも問題解決できるように頑張りたいと思った。

- ※1 **トラブル・メーカーズ・スクール**
アメリカの労働者組織(レイバーノーツ)が進めるワークショップ。「職場を働きやすくしたい」「変えたい」と思う人は、上司から見れば、トラブル・メーカーですが、職場をよりよくしていくには問題を指摘していくことが大切。そうすることができる仲間づくりを進めるためのワークショップです。
- ※2 **コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン**
市民一人ひとりが自らの価値観にもとづいて能力を発揮し、そのパワーを結集することで困難や課題が解決され、さらにその挑戦が応援される社会をつくるという「コミュニティ・オーガナイズング」の実践を日本において広めるNPO法人。

に始まり、「働きやすい職場をつくる」職場の仲間づくりをテーマに楽しく学び、ワークショップが進むにつれ、参加者がどんどん積極的になって、みんなの顔が笑顔になり、あっという間に時間が過ぎました。

府職労、病院労組、青年部 2018年度要求書提出

働きやすい職場をめざして

2月7日に開催の府職労第3回中央委員会で決定した「府職労2018年度要求書」「病院労組2018年度要求書」をそれぞれ提出し、組合員・職員の切実な要求を実現するよう求めました。また、青年部が昨年の定期大会で提案し議論を重ねてきた「府職労青年部2018年度要求書」を提出しました。



府庁職場でも、病院職場でも、深刻な人員不足と長時間過密労働が蔓延し、メンタル疾患になる職員の増加、退職する職員があつとを絶ちません。人員不足の解消、長時間勤務の改善、働きやすい職場環境にすること、賃金・諸手当の改善などが急務です。

昨年、やっと府と同じ一時金(ボーナス)アップとなった。しかし今の現場にみあった賃金労働条件ではない。深刻な人員不足の改善、夜勤回数の縮減等の問題点を解決し、働き続けられる条件こそがよりよい医療提供につながります。ガイドラインの徹底と非正規職員の均等待遇に向けて要求します。(病院労組委員長 山本桃代)



病院労組

憲法を守り活かす社会に 組合員の言葉で綴る平和への思い



憲法9条の改正をめぐる、自衛隊を明記する案や2項削除案などの議論が進み、今、日本国憲法は重大な岐路にさしかかっています。「戦争のできる国へ」このまま、突き進んでしまっているのか。職場のみなさんから、声を集めてみました。

- 子どもたちが生涯安心して健やかに過ごせる環境を守り抜くために、憲法を変えないでほしい。
- 2人男の子がいます。この子達が不安になっています。私も怖いです。将来、大きくなった子どもたちが戦争に行かなければならないの？ホントに9条を変えてしまったら、戦争への歯止めは誰がしてくれるの？今の政権に、全体の命を守る気持ちがある良心を持った政治家がいるようには思えません。だから怖い。子どもたちに希望や夢を持ってほしいと思うけど、今の状況では親がそう思えないです。
- 『9条守ろう！』と自由に言える年は、今年が最後の年になるかもしれない。
- 組合の勉強会で、憲法を意義あるものにするためには、国民の不断の努力が必要であり、何もしないと権力が国民の権利を奪うことにつながると知りました。関心を持つことだけでも大きな力になるのではないのでしょうか。
- 自分の家族が戦争に行くかもしれないと思って考えてほしい。
- 人を傷つけて得られる幸せはない。武力で得た安寧は、傷つけられた誰かの手で再び失われる。
- 私の子どもに、誰かを傷つけさせたくない。
- 戦争で悲しむ日本にしたいくない。
- 戦争からは何も生まれない。平和な世界を。

大げさな話ではありません。私たちは、平和を当たり前のように享受していますが、それは、当たり前にあるものではなく、日本国憲法という、世界に誇る門番が守ってくれている、空気のような、そしてかけがえのない平和なのだ、ということ、決して忘れてはならないのです。

職場を働きやすくするために



なで取り組んでいくこと
の大切さがよくわかった。
時間があつた。
30年前に受けていた人生
変わっていたかもというくらい勉強になった。
自分だけの考えを述べるのではなく、みんなと話し合い、改善案を考えることで、自分の考えている以上



青年部

青年部では、昨年「要求書(素案)」を決定し、常任委員会等で議論を重ね、2月19日に要求書を提出しました。
青年層の大幅賃上げや、特に社会的問題である「奨学金」を重点要求として位置づけ、借り換え制度創設を求めています。やりがいを持って安心して働き続けられる職場環境の実現を求め、私たちは全力で奮闘します。
(府職労青年部長 塚元寛貴)

医療の現場から

府民のいのちと健康を守る府立病院に ③

大阪国際がんセンター 東 里美

医療事故が起こっても
おかしくない忙しさ
昨年4月に大阪国際がんセンターとして開院してからもうすぐ1年がたちます。
新しいシステムに慣れるまで毎日、緊張の連続でしたが、最近になってようやく新しい環境にも慣れ、何とか軌道にのってきたという感じです。
綺麗な建物になり一見、快適に仕事をしたいそうに見えるかも知れませんが、実際は、職員はみな疲れ果て、いつ大きな医療事故が起こってもおかしくないくらい(ヒヤリハットのインシデントは毎日あります)の忙しさの中で働いています。私は外来の看護師です

新病院になって現場はさらに過酷な実態



が、常勤と非常勤を合わせてギリギリ(それ以下かもしれない)の人員で毎日どんなに頑張っても、昼休憩が2時から3時頃になってしまいます。
一緒に働いている派遣の医師事務補助(クラークさん)も同じ状況です。
外来診察の医師の中には、昼食にもトイレにも行かず10時間以上、連続で診察を続ける医師もいます。ある医師は「僕は10年間、昼ご飯を食べていません」と笑顔で患者

緊急入院という形で
再入院になる患者さん
診療報酬を優先するあまりに在院日数の短縮が病院の目標に掲げられ、早期に退院となった患者さんが、症状が悪化して結局、緊急入院という形で再入院になるケースが目立ちます。
一方で満床状態が続く、緊急入院では、高額な料金の個室しか空いていないことが多く、患者さんにしぼりつぶす承してもらい入院していただく

非常勤ネットワーク
を作りたい
外来では非常勤の看護師が多く働いています。皆それぞれ事情があつて短時間の勤務ですが、常勤と同じ業務をしています。
昨年、組合に加入された非常勤の方が2名いますが、他の非常勤の方に組合のことを話していただき加入をすすめてくれたりする状況も少しずつまわっています。
非常勤職員の待遇改善のためにも、いずれは非常勤ネットワークを作りたいねと話しています。

即
ス)あ
こ
不
解
い
匠
の
箱
求
し



病